

## 【目次】

### みんなのアクション

- ・『EAT GOOD PLACE』が生み出すサイクルとは？
- ・としまのまちを知りつくした「IKE BUSおじさん」 バスでめぐり、人とつながる、その生き方【前篇】
- ・としまのまちを知りつくした「IKE BUSおじさん」 バスでめぐり、人とつながる、その生き方【後篇】
- ・人とひとのつながりが生まれる「場」を目指して。大塚の街をクリーンアップ！
- ・地域のつながりの拠点区民ひろばから「元気」を発信
- ・マンガ界の巨匠たちが過ごした「トキワ荘」文化資産を活かし、住民自ら街を元気に
- ・未来遺産のまち・雑司が谷を知ってほしいまちをめぐり、魅力を受け継ぐ
- ・池袋で発展を続けてきた企業として、としまが進めるSDGsの一翼を担う
- ・まち全体が、みんなの「キャンパス」。文化が生まれる「場」、まちなか教室の魅力に迫る
- ・小学生がまちの商店街を駆けて、みんなが応援する。地域と共にある持久走が、豊かな心と体を育む
- ・次世代の声優ガールズユニットを発掘！「SUN AUDITION」で地域とともにアニメの聖地・池袋を盛り上げたい
- ・としま愛とみんなとの絆を力に、サステイナブルなまちづくりへ挑戦【前篇】
- ・としま愛とみんなとの絆を力に、サステイナブルなまちづくりへ挑戦【後篇】
- ・子ども大使が描く「としまの未来」。夢と希望があふれる、まちの姿とは。
- ・地域発のリサイクルで持続可能な社会を目指す。千早高校「IP+」が挑むまちづくり
- ・池袋駅のすぐ近くにある重要文化財「自由学園明日館」。文化発信の「場」としてさらに深まる、その魅力に迫る
- ・ピザを通じて届ける「あたたかさ」。子どもたちや家族のくらしをサポートするピザーラの新たな試みとは
- ・「なんか面白いこと」を届ける。まちづくりのハブとなるサンシャインシティのこれまでとこれから【前篇】
- ・「なんか面白いこと」を届ける。まちづくりのハブとなるサンシャインシティのこれまでとこれから【後篇】
- ・第二のふるさと、としまへの想い。世界の共通言語「音楽」で人々の心を潤す
- ・街中のごみを減らして元気を届ける。としまシルバースターズが創るクリーンなとしま
- ・手しごとでつながる「はあと」。技術と想いがこもった商品を通して「誰一人取り残さない」まちづくりを
- ・まちのコミュニティを育むカフェ。東長崎のまちにある「MIA MIA」へようこそ
- ・生涯スポーツ、サッカー。スポーツカルチャーで活気づくまちの姿
- ・子どもたちの夢が詰まったイベントをカタチに。トレンドを発信し続ける池袋パルコの想いに迫る
- ・「当たり前」の暮らしを支えるごみ収集。きれいなまちを維持しさらに明るいとしまのまちへ
- ・4年ぶり、念願の開催。まちが音楽と笑顔にあふれる風物詩「池袋ジャズフェスティバル2022」
- ・切磋琢磨する創作活動の原点「池袋モンパルナス」。九十周年を機に、過去と未来を見つめる回遊美術館とは
- ・「モラルのない心を成敗ッ」。侍姿でまちを巡り、ごみゼロをともに目指す「ゴミ拾い侍」の活動とは



2021.10.29

#IKE・SUNPARK #EAT GOOD PLACE #都市整備部

[ OVERTURE ]

昨年末に「としまどりの防災公園（通称イケ・サンパーク）」内にオープンした『EAT GOOD PLACE』。代表を務める松浦亜季さんにお店にかける想いをうかがいました。



Profile  
松浦 亜季さん  
Aki MATSUURA

『EAT GOOD PLACE』代表。店舗を運営するエビエリのエグゼクティブシェフ。無添加、オーガニックにこだわった料理を手がけるほか、専門学校での講師や食に関する講演も行う。

広々としたテラスの先に広がる綺麗な芝生。開放感たっぷりでリラックスして過ごせるこのカフェ、『EAT GOOD PLACE』。昨年末にオープンしたばかりですが、今ではすっかり地域の人たちの憩いの場となっています。そんな素敵なお店のコンセプト作りからメニュー開発までプロデュース全般を手がけたのが、代表の松浦亜季さんです。

**松浦「“食べる事から生まれる良いサイクル”をテーマに、食を通して様々な取り組みを行っています。緑が多く気持ちの良いロケーションで、住宅地が近いので子連れのお客様にも多く来ていただける。都内でこれほど恵まれた環境でカフェをオープンできる機会はなかなかありません。また、豊島区のSDGsに対する取り組みや区長の思いにも共感して出店を決めました」**

お店では、三浦半島でとれた新鮮な野菜や鮮魚をはじめ、日本各地の食材を厳選して調理したメニューを豊富にラインナップしています。

**松浦「身体にも地球にも優しい作り方をしている生産者の方から食材を手に入れるようにしています。化学調味料を使わずに作ったカレーなど、お子様にも安心して食べていただける料理を心がけるほか、植物を原料にしたストローや紙製のカップを使うなど、プラスチックごみを極力減らすようにしています**



お店の裏手には小さな菜園が。ここでは、料理に使う野菜やハーブを育てています。

**松浦「菜園には2つのコンポストを設置しています。通常なら事業ゴミを自分たちで処理することは難しいのですが、公園側と話し合った結果、コンポストを使い、調理の過程で出る野菜くずやコーヒー豆のカスなどのゴミを堆肥としてリサイクルできるようになりました」**

イケ・サンパークでは、毎週末、ファーマーズマーケットを開催。各地の農家さんが大切に育てた新鮮な野菜や果物を直接購入できるのが魅力です。

**松浦「以前開催された際、買った野菜をお店で使ったこともあります。今後は本格的に野菜を仕入れていきたいですし、マーケットで買物をしたお客様がうちのメニューを参考に家庭で作ってみるといったようなサイクルが生まれたら楽しいですね」**

『EAT GOOD PLACE』で思い思いに過ごす人々の姿を眺めながら、松浦さんはこう夢を語ります。

**松浦「豊島区に暮らす人たちの生活の一部になるような親しみやすい場所にしたいです。また、私たちや豊島区の取り組みを通して、多くの人にSDGsについて理解を深めてもらえれば嬉しいです」**

— 関連するSDGs —



としまのまちを知りつくした  
バスでめぐり、人とつながる、  
「IKE BUSおじさん」  
その生き方【前篇】



2021.10.29

#IKE BUS #都市整備部

## [ OVERTURE ]

「IKE BUSおじさん」の愛称で親しまれる、IKE BUSの添乗員である城所さん。としまのまち・ひとに詳しい城所さんから、としまの魅力やIKE BUSへの想いを伺いました。



Profile

城所 信英さん

Nobuhide KIDOKORO

としま未来文化会議座長・東京都ユネスコ連絡協会理事をはじめ、20近くの団体やネットワークに所属。ひとのつながりを大切にしながら、としまの持続可能な未来の実現のために精力的に活動している。

「出発進行!」。豊島区内を走るまちなか交流バス・IKE BUS内に響きわたるこどもたちの号令。IKE BUS名物とも言われる添乗員の城所信英さんが、今日もにこやかに声をかけながら、まちをめぐります。

**城所「IKE BUSは路線を巡回するだけでなく、貸し切りで園児の送り迎えや豊島区の名所をめぐる『IKEBUSアトカルツアー』を行っています。今日は区内保育施設の活用事業の一環で、サンシャイン水族館までの送り迎えです」**

窓の外の景色に興味津々なこどもたちが元気いっぱい手を振ると、消防員や商店街の店員、池袋に遊びにきた学生も思わず笑顔に。その中には、城所さんと縁深い人もたくさんいます。

**城所「20近くの団体やコミュニティで活動しているから、街のお米屋さんや文房具屋さんをはじめ、たくさんの人とつながっているんです」**



「この花は何の花?」「上り坂だ!IKE BUSを応援しよう!」園児たちも楽しそうにおしゃべりに興じています。IKE BUS・No.1ドライバーの篠田さんと一緒に園児を目的地に送り届けると、城所さんがIKE BUSについて教えてくれました。

**城所「もともと欧州のトラム(路面電車)のような、街に魅力的な彩りをそえる乗り物に興味がありました。**

**しかし豊島区の場合、より路線の自由度が高いバスのほうが実際的だと思っていました。**

**そんな折に、高野之夫豊島区長のイニシアチブのもと、インダストリアルデザイナー・水戸岡 鋭治氏にもご協力をいただき、**

**グリーンスローモビリティ※を活用した魅力的なIKE BUSの運行が実現したのです」**

城所さんによるとIKE BUSは1号車から10号車まで、すべて内装が異なり、7号車にいたってはラッキーセブン・幸せの黄色の車体になっているとのこと。さらには、車窓から見えるスポットも、日本一高いスカイツリーと世界一高いごみ焼却場の煙突が左右に見えるポイントや、こどもが喜ぶサッカーボールのオブジェなど、知られざる名所がたくさん。

**城所「IKE BUSの活動は生きがいですね。楽しいし、エネルギーをもらえるんです。大学時代は応援団をしていたこともあって、話すことは好きです。一番適任だからやってくれ、と運営を任せられました」**

バスに乗る人も、街で過ごす人も、みんなを明るく笑顔にする城所さん。

後編では豊島区・大塚で育った城所さんに豊島区への想いを伺います。

※時速20km未満で公道を走ることができる電動車。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



TOSHIMA  
International City  
of Arts & Culture



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

としまのまちを知りつくした  
バスでめぐり、人とつながる、  
「IKE BUSおじさん」  
その生き方（後篇）



2021.11.08

#IKE BUS #都市整備部

## [ OVERTURE ]

「IKE BUSおじさん」の愛称で親しまれる、IKE BUSの添乗員である城所さん。前篇に続き、豊島区・大塚で育った城所さんに豊島区への想いや魅力を伺いました。



Profile

城所 信英さん

Nobuhide KIDOKORO

としま未来文化会議座長・東京都ユネスコ連絡協会理事をはじめ、20近くの団体やネットワークに所属。ひとのつながりを大切にしながら、としまの持続可能な未来の実現のために精力的に活動している。

**城所「僕の生まれは大塚。学校は他の区に通っていましたが育ちはずっと豊島区でした。もともとほとんど魅力を感じない区でしたが、今や世界にも誇れる都市になりましたね」**

目尻を下げながら城所さんは嬉しそうに語る。

**城所「自分たちがこうなるといいなと考えていたことが、実現されていくのは嬉しいですね」**

一般社団法人としまアートカルチャーまちづくり協議会には豊島区を良くしたいという想いをもった人々が集う。立ち上げから携わり、区と民間を繋ぎながら奮闘する日々。2019年に自ら営んでいた店を閉じて以来、一層IKEBUSの活動に没頭しているそうです。



**城所「僕はもともと体育会系で、アクティブなタイプなんです。でもそれだけじゃなくて、子どもたちから、街の人たちから、そしてこのバスという不思議な乗り物からも活力をもらえますね」**

バスに乗っている人たちに声をかけ、区民に力を送るその姿はまだまだ「現役」。城所さんは新型コロナ禍による混乱が少しだけ落ち着きはじめ、街にも活気が戻りつつあると言います。

城所「昔は大塚と自分の街の名を言うのもためられる程、自分の中でネガティブなイメージを持っていました。」

**「『無いものねだりをやめて有るもの探し』の街おこし活動に皆で取り組み、花のまちづくりコンクール日本一を受賞したり、公民連携で理想の駅前広場をつくったり、その広場で早朝清掃体操会を継続する…。少しずつ活動が評価されてくると、人々に自分の街への誇りと愛着が生まれてくるんですよ」**

街を愛する人が周りを巻き込んで勇気づけながら進める街づくり。その輪はどんどん広がっています。そして、その中でIKEBUSも少しずつ名物になりつつあります。

**城所「IKEBUSっていうのは『I:行けば K:きっと E:笑顔に会える BUS』です(笑)」**

少し照れながら笑う城所さんに会いに、ぜひIKE BUSに乗ってみませんか。

※10月中旬取材現在

## [ NEWS ]

2021年10月から「IKE BUSアートカルチャー」再開!

池袋周辺だけに留まらない幅広い魅力を「IKE BUSで巡るツアー」という形で、豊島区内外の方々に届けています!

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



TOSHIMA  
International City  
of Arts & Culture



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

人とひとのつながりが  
生まれる「場」を目指して。  
大塚の街を  
クリーンアップ！



2021.11.18

#大塚 #クリーンアップ大塚 #ironowa hiro ba #環境清掃部 #都市整備部

## [ OVERTURE ]

街の人たちと共に、大塚駅前の広場をきれいにする清掃活動「クリーンアップ大塚」。主催である山口不動産株式会社の武藤さんに活動に対する想いや街のこれからを伺いました。



Profile

武藤 浩司さん

Koji MUTO

小学生から大学時代までを豊島区で過ごし、山口不動産株式会社にて代表取締役CEOを務める。大塚駅前の不動産を多く所有・管理し、星野リゾートのホテル「OMO5東京大塚」を誘致、2021年7月からは地域の有志でゴミ拾い活動を行うなど、大塚の街を活性化するプロジェクトに取り組む。

カラフルな軍手やゴミ拾いトングを持つ人々が集う大塚駅北口駅前広場。

20代～60代まで年代はさまざまで、200人ものおそろいのゼッケンを身に付けています。2021年11月5日、雲ひとつない青空のもと、大塚に住む人や働く人が集まり、ゴミ拾いイベント「クリーンアップ大塚」が行われました。

**武藤「同じ目的意識のもと空間や時間を共有することで縮まる距離感があると思います。人と人が顔を合わせて交流できる、魅力的な「場」をつくるのが僕たちの仕事です。」**

もともとは社内のメンバーのみで行われていた清掃活動。2021年7月からは大塚を愛する「地元民」のみならずと一緒に行おう、とイベントを企画。過去最大規模で行われたこの「クリーンアップ大塚」は、区民同士の「つながり」をポイントとしており、新たなコミュニティが生まれる「場」となりました。

**武藤「『地元』というと、商店街や町内会というのが社会一般のイメージになりますが、それだけではなくて、街に暮らし、通い、過ごす人たちと一緒に『地元』だと考えています」**

ボランティアとしてゴミ拾い活動をして綺麗にするだけに留まらず、街中をグラフィティアートで彩るように、わくわくする街にしている。武藤さんの熱い想いは笑顔に表れていました。



ゴミ拾いに参加した200名の参加者



大塚駅前を彩るSDGsカラーに装飾された分電盤



高野区長もゴミ拾いに参加されました



**武藤「街を訪れた人の体温が、意識せずとも上がっちゃうような、高揚感にあふれる街をつくりたいです」**

昔から人と同じことはしたくない、という気持ちが強いと語る武藤さん。

ほかの街が真似できないような取組みを志すことで「ユニーク」な街であり続けたいと言います。

**武藤「周りの人に喜んでもらって、さらに自分自身もより努力しよう、と思えるサイクルを創ることにやりがいを感じます。伸びしろがまだまだある。それが豊島区の魅力です」**

## [ NEWS ]

大塚駅北口駅前広場 光のファンタジー (ironowa hiro ba)

再整備されたJR大塚駅北口の駅前広場の「ironowa hiro ba (イロノヒロバ)」。  
夜には大リングや各モニュメントがLEDで広場全体をカラフルに彩ります。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

地域のつながりの拠点  
区民ひろばから「元気」を発信



2021.11.25

#区民ひろば #畑部 #区民部

## [ OVERTURE ]

地域の人々と協力し、畑づくりに取り組んでいる「区民ひろば千早（NPO法人はばたけ千早）」。事務局長を務める城さんに、活動の詳細や区民ひろばの将来の展望について、お話を伺いました。

### Profile

地域区民ひろば千早 城 寿子さん

Hisako Jo

豊島区の保育園・高齢者施設「ことぶきの家」に勤務し、45年以上、まちで暮らす人々に寄り添う。現在は区民ひろば千早の事務局長を務め、畑部会をはじめユニークな活動を進める。それだけでなく、地域の講演会などにも登壇し、自身の人生における体験談を語るなど、幅広く活動している。

地域住民の憩いの場として、豊島区の各所に設置されている区民ひろば。なかでもユニークな活動に取り組んでいるのが、区民ひろば千早です。（NPO法人はばたけ千早が運営しています。）

建物の裏手には、太陽の光を浴びて輝く、青々とした野菜畑が広がっています。

## 城「畑そのものを作ったのはおよそ16年前。そこから立派な土壌ができるまで、3年はかかりました」

そう語るのは、区民ひろば事務局長の城さん。ここに至るまで多くの苦労があったそうですが、口調はどこか楽しげです。

城「最初はとにかく雑草が多くて。知り合いから耕運機を譲り受けて耕したりして、少しずつかたちを整えていきました。空き地の埋め立てや住宅の建設で地面を掘り起こすときには、『畑部会』のメンバーと一緒に黒土をもらいに足を運んだり。堆肥づくりのために、メンバーが城北公園まで落ち葉拾いに行ってくれたこともありましたね」

実現までに何度かハードルにぶつかったようですが、区長や地域の人々からの激励もあり、気持ちを引き締めて立て直すことができたといいます。



「畑部会」以外にも、区民ひろば千早では数多くのイベントを開催しています。親子で行うピラティスや、認知症予防のための体操など、さまざま。コロナ禍においても、密を避けるためにイベントの実施日を分けるなどの対策を行い、活動を続けてきました。今では1日に100人以上が訪れており、少しずつにぎわいが戻りつつあります。

城「何より嬉しいのは、地域の方の『来てよかった!』という言葉を受けた瞬間。充実した体験を届けられるのは、職員みんなが楽しみながら、一致団結して仕事に取り組んでいるからこそだと思います。区民ひろばを拠点として、職員と地域の人々、教育機関、さらには行政まで、横のつながりを広げ、より良い相互作用を生んでいくことがこれからの目標です」

取材に応えながらも、終始職員の方への気配りを忘れず、穏やかに微笑む城さん。城さんが理想とする横につながった区民ひろばが実現する日は、遠くないでしょう。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

マンガ界の巨匠たちが  
過ごした「トキワ荘」  
文化資産を活かし、  
住民自ら街を元気に



2021.12.01

#トキワ荘 #街づくり #商店街 #文化商工部

## [ OVERTURE ]

マンガ界の巨匠が下積み時代を過ごしたアパート、トキワ荘。その文化資産を生かし、持続可能なまちづくりに取り組んでいるのが小出幹雄さんです。長きにわたってとしま・南長崎の街を見つめてきた小出さんに、街を元気づけるためのこれまでの取り組みや今後の展望を伺いました。

### Profile

小出 幹雄さん

Mikio KOIDE



トキワ荘商店街(旧・南長崎ニコニコ商店街)の元時計店を改装し、トキワ荘マンガミュージアムに隣接するブックカフェ「ふるいちトキワ荘通り店」の大家として活動しながら商店街会長も務める。また、トキワ荘協働プロジェクト協議会のメンバーとして、トキワ荘を活かしたまちづくりを積極的に推進している。

手塚治虫、藤子不二雄<sup>Ⓐ</sup>、藤子・F・不二雄、石ノ森章太郎、赤塚不二夫……。豊島区には、名だたるマンガ家が青春を送ったアパート、トキワ荘がありました。

当時の建物は解体されてしまいましたが、2020年、その再現施設である「トキワ荘マンガミュージアム」がオープン。その裏側には街を元気にしようと取り組み続けた、住民の姿がありました。小出さんは、トキワ荘を活かした町おこしの歴史についてこう語ります。

**小出「もともと父が商店街の会長を務めていたのですが、時を経て私が受け継ぐことに。しかし、100店舗ほどあった商店街の店の数は4分の1に減り、以前のような活気を失ってしまっていたんです。『住み続けられるまちづくり』のために何かできないか考えた結果、トキワ荘という文化資産を活かさない手はない、と気づきました」**

2007年7月には、豊島区の隣の商店街と共同で、「トキワ荘跡入り口」の誘導看板の設置から活動はスタート。その後、「トキワ荘のヒーローたち」と称した記念碑や、トキワ荘出身作家の書籍や部屋の再現展示がある「お休み処」を地域の要望で区が設置。除幕式では多くのメディアや来街者でにぎわいました。

小出「大切なのは、地域の課題を人任せにせず、住民自らが動くということです。自分たちで町を元気づけようと動いたからこそ、区長にも熱意が伝わり、行政と連携したミュージアム設立に繋がりました。ゆくゆくは、住民一人ひとりに『おもてなし』の意識を持っていただき、まち全体がミュージアムのようになればいいですね」



現在、ミュージアムではコロナ禍のため来館人数を制限していますが、今後観光客がたくさん訪れることを心待ちにする小出さん。としま発のマンガ・アニメ文化を、日本、そして世界へ……。トキワ荘を活かしたまちづくりへの挑戦は、まだまだ続きます。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区

TOSHIMA  
International City  
of Arts & Culture

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

未来遺産のまち・雑司が谷を知ってほしい  
まちをめぐる、魅力を受け継ぐ



2021.12.07

#観光 #まち歩き #雑司が谷 #ボランティアガイド #文化商工部

## [ OVERTURE ]

池袋駅南東に位置するまち、雑司が谷。国指定重要文化財「雑司ヶ谷鬼子母神堂(※)」や文豪・夏目漱石をはじめ多くの著名人が眠る雑司ヶ谷霊園など見所に溢れたまちで、日本ユネスコ協会連盟の未来遺産にも登録されています。このまちの魅力を発信するべくボランティアガイドとして活動しているのが「としま案内人 雑司ヶ谷」のみなさん。時には講義形式で、そしてまちに出て、解説をしながら、まちが秘める歴史のおもしろさを伝えてくれます。

※鬼子母神の鬼は、一画目を除いた字です。



### Profile

ボランティアガイド としま案内

人 雑司ヶ谷

Toshima Guide ZOSHIGAYA

豊島区コミュニティ大学主催の『2010年度雑司が谷ボランティアガイド養成講座』を終了し2011年から活動をスタート。現在有志のメンバー23名で活動を行う。雑司が谷地域の方々だけでなく都内や他県からも年間約1,000名が参加。新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動を自粛していたが、2年ぶりとなる2021年11月に活動を再開した。

11月、コロナ禍が少し落ち着きを見せ、久しぶりに「としま案内人 雑司ヶ谷」の活動が再開されました。2回にわたった活動の1回目の「消えた川<<弦巻川>>を歩こう!」には、約40名の希望者が参加。定員をオーバーしたほど大人気です。そして、2回目はまちに出て、講座で得た知識を感じながら弦巻川の痕跡をたどるまち歩きに出かけました。



**川崎「今日のポイントは住居表示を見ながら、まちの移り変わりを覚えること。現在弦巻川はなくなっていますが、時代とともに流れが変化した様子や、川を隔てて豊島区と文京区が分かれていた様子などがまちを歩く中から読み取れます。」**

分かれ道や住居の表示などのポイントを巡りながら、一人ひとりに配られたトラベルイヤホンを通じても解説を聞くことができるなど、細やかな気配りも感じられます。

**小池「まちに住む方たちは、雑司が谷を大変大事にしています。それをいらした方が感じて下さったら嬉しいです」**

メンバーの皆さんは青い半纏を身にまとい、車にも気をつけながら歩みを進めます。参加者からは実際にまちの様子をみるなかで質問も。ちょうどこの日は大鳥神社の酉の市の日。屋台も立ち並ぶ境内で、途中休憩をはさみます。

**磯田「雑司が谷も新しく道路ができたり、家が建て替えられたり、まちの姿を今のまま残していくことは難しい。ですが、100年前にこんなまちがあったんだよ、と歴史を受け継いでいくことは重要と考えています」**

近隣の小学生にまちの魅力を伝える活動をするなど、ボランティアの活動はさまざま。

若者たちが積極的に「良いところ」を受け継いでいくには、まだまだ魅力発信が必要と語るメンバーのみなさん。「としま案内人 雑司ヶ谷」の活動は続きます。

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

池袋で発展を  
続けてきた企業として、  
SDGsの一翼を担う  
としまが進める

2021.12.13

#企業の取り組み #エネルギー #環境清掃部 #都市整備部

## [ OVERTURE ]

池袋駅地下に広がるショッピングセンターには毎日多くの人々が訪れ、まちに活気を与えています。創業以来、豊島区に根付き事業展開してきた株式会社池袋ショッピングパーク(略称:ISP)。「SDGs未来都市」の企業として、SDGs達成につながる取り組みを進めるISPの取締役 林 邦彦さんと戦略推進室 室長 高木 博章さん、街づくり推進担当 担当部長 原島 克典さんに、活動の詳細と理想のまちのすがたを伺いました。

### Profile

#### 株式会社池袋ショッピングパーク Ikebukuro Shopping Park

1959年に設立。都市計画駐車場の事業を国から特許を受けたことをきっかけに、現在では池袋東口公共地下駐車場やショッピングセンター、周辺のビル不動産の経営などを行う。豊島区のSDGs推進活動に賛同し、再生可能エネルギーの導入などさまざまな活動に取り組んでいる。

中高生や家族連れ、お年寄りなど、幅広い年代の人でにぎわう池袋ショッピングセンター。

長年地域の人々に寄り添って事業を展開してきたISPでは、現在再生可能エネルギーの活用による脱炭素化に力を入れて取り組んでいます。

その具体的な活動内容と成果について、林さんは次のように説明します。

**林「2021年8月から、豊島区の姉妹都市である秩父市の電力会社と連携し、『低炭素電力』をISP第3ビルに導入しました。この施設でのCO<sub>2</sub>排出量は、2020年度比で約2割(216t)削減される見込みです。また11月からは株式会社エネットと契約し、100%再生可能エネルギー由来の電力供給を開始。ショッピングセンターや地下駐車場で使用することで、CO<sub>2</sub>排出量を2020年度の1,763tから削減しゼロにします」**

さまざまな取り組みの背景には、「SDGs未来都市」である豊島区への共感があるといいます。

**林「豊島区は持続可能なまちづくりにいち早く取り組み、『SDGs未来都市』『自治体SDGsモデル事業』に選定されました。我々も地元・池袋の企業として『オールとしま』の輪に加わり、SDGsの推進に関わっていきたくと考えています」**



左:原島克典さん/中央:林邦彦さん/右:高木博章さん

ISPは豊島区と連携し、サクラエビbiz応援プロジェクトと題した女性起業家のためのイベントも開催しています。2022年3月からは納品車両による路上駐車問題を解決するべく、荷さばきスペースを設けた駐車場を設置する予定です。

**林「豊島区が進める文化を基軸としたまちづくりは、地域住民の生活を豊かにするうえで非常に重要です。当社では今年から『まちづくり推進担当』を設置。豊島区とともにサステナブルなまちの実現に向けて、より一層活動を広げていきたいと考えています」**

自治体と企業がお互いの知見を活かし、地域住民も巻き込んで、経済・社会・環境の三側面に好影響をもたらしていく——。豊島区ならではのまちづくりのあり方は、貴重な先例として社会に影響を与えていくことでしよう。

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



まち全体が、みんなの「キャンパス」。文化が生まれる「場」、まちなか教室の魅力に迫る

2021.12.28  
#大学 #まちおこし #巣鴨 #商店街 #政策経営部

## [ OVERTURE ]

豊島区は区内にある7大学と包括協定を締結し、区民の学びの充実と地域づくりのための事業を展開しています。なかでも大正大学は、地学協働によるひとづくり・まちづくりを実現する「すがもオールキャンパス」というプラットフォームを構築しています。「おばあちゃん原宿」と言われる巣鴨の中心地、巣鴨地藏通り商店街で繰り広げられる取り組みについて、大正大学の魅力化推進部・高橋慈海さんと落語家・立川志ららさんに伺いました。

### Profile 大正大学 TAISHO University



2026年に設立100周年を迎える、6学部・10学科を設置する大学で、地域・社会に貢献する人材育成をめざしている。豊島区とは地域共創に関する協定を2014年に締結し、教育・産業・生活に関する、年間100近い取り組みを実施。巣鴨のまちに根付き、地域を活性化すべく産学官民連携の取り組みを進めている。

降り続く雨のなかでも、多くの人々が訪れる「巣鴨地藏通り商店街」。通りのあちこちから、活発な声が聞こえてきます。巣鴨駅近くにあるこの商店街は、大正大学がつくるプラットフォーム「すがもオールキャンパス」の舞台でもあります。

**高橋「大正大学では、産学官民一体となり地域課題の解決を目指しており、新しい価値創造を行うべく2018年に『すがもオールキャンパス』の構想を掲げました。コロナ禍で学生が大学に来られない時期もありましたが、大学のキャンパスだけでなく、地域でも新しい挑戦ができる場を設けるべく再始動しています」**

10月には巣鴨を舞台としたAR謎解きイベントを開催。また巣鴨地藏通り商店街には、まちを学びの舞台とする「すがも街なかキャンパス」とし6施設を展開しています。

**高橋「落語カフェ『ガモール志學亭』も、すがも街なかキャンパスのユニークな取り組みの1つ。このカフェには自由にワークショップができるスペースがあり、お茶を楽しみながら多くの刺激を感じることができます」**注目の取り組みは「落語」。店長で落語家である立川志ららさんを中心に、月に3回ほど、演目を披露しています。店内にはお客さんでいっぱい。通りすがりの人たちも、ガラス張りのドアから見える落語の様子に興味津々な様子です。

**立川「事前予約不要でふらっと落語を聞けるところが魅力ですね。リピーターの方も多く、お客さん同士で『次回いつ来るの?』といった会話をお聞きすることも。ちょっとしたつながりが生まれているのも嬉しい限りです。文化と気軽に出会う、きっかけの場になってほしいなと思います」**



通りがかった人も、思わず立ち止まり興味津々な様子



月に3回ほど、カフェで落語を披露する立川志ららさん



学生が参画するアンテナショップ「ガモール・マルシェ」

巣鴨のまちで笑いと文化を発信していきたいとスタートした落語カフェですが、今では「文化」を発信しながら、新たに認知症予防の取り組みも始めるなど、区民が学ぶことができる貴重な「場」にもなっています。

大学のみ、区だけに留まることなく、外とのつながりを生まれる場所へ。まちの未来をつくる取り組みは加速しています。

### — 関連するSDGs —



小学生がまちの商店街を駆けて、  
地域と共にある持久走が、  
豊かな心と体を育む  
みんなが応援する。



2021.12.28

#持久走 #巣鴨地藏通り商店街 #教育部

## [ OVERTURE ]

東京都豊島区駒込にある豊島区立仰高小学校では、ピオトープの活性化やSDGsに関する作文や物語を児童から募る「夏のコンクール」を行うなど、SDGs達成に向けた取り組みを進めています。今回は年に一度開催される、巣鴨の地藏通り商店街での持久走取材。新井裕校長先生にお話を伺いました。



### Profile

豊島区立仰高小学校

Gyokou primary school

豊島区立仰高小学校は、東京都豊島区駒込にある公立小学校。2021年11月には、開校145周年を迎え、豊島区の中でも最も長い歴史と伝統がある。ISS (International Safe School) を認証しており、安全・安心な教育にも力を入れている。

ごん ——。鳴り響く鐘の音を合図でスタートを切る小学生たち。とげぬき地藏尊・高岩寺の鐘の音で、「巣鴨地藏通り持久走2021」が始まりました。

普段は買い物客でにぎわう「巣鴨地藏通り商店街」ですが、この日は一風変わってみんな応援に夢中。お店が開く時間には、商店街のお店の人や地元の幼稚園の先生や子どもたちも、小学生の走者にエールを送ります。

最後の子どもが新井校長とゴールするときには、子ども達と先生、PTAの親御さんも全員で頑張り拍手を送りました。

**新井「持久走は健康に良いだけでなく、みんなが1つのゴールに向かって走りぬく、質の高い教育としての効果もあります。地域の温かさを感じることができますし、この持久走はぜひとも継続していきたいですね」**

これまでの職場でもマラソンの活動に長く関わってきた新井校長。この持久走を企画し、巣鴨警察へ打診を行った際には当時の巣鴨警察の担当者から「そんなこと考える人ははじめて」とびっくりされたのだとか。

**新井「私が巣立った豊島区に貢献したいという想いがありました。縁があり、この小学校に来てすぐに『この商店街で子どもを走らせ地域の素晴らしさを味わわせたい』と強く思いました。地域の人たちからの温かい声を受け、子どもたちも一生懸命に取り組んでいますね」**



仰高小学校では、ISS (International Safe School) の取り組みの延長としてG (Gyoko) -SDGsを掲げて取り組みを加速しています。現在は環境教育の一貫として、ヤゴの救出作戦やピオトープの活性化、緑のカーテン事業を保護者、地域、大正大学と連携して進めています。

**新井「人にも自然にも思いやりのある学校でありたいですね。そして地域が優しく、自然にあふれている。そんなまちであるといいなと思います」**

新井校長先生の夢と、仰高小学校の取り組み、そして地域みんなで取り組む持久走はこれからも続いていきます。

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



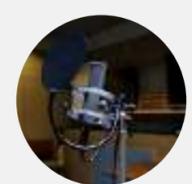
2022.01.19

#南沢江里子 #本泉莉奈 #マンガ・アニメ文化 #オーディション #文化商工部

次世代の  
声優ガールズユニットを発掘！  
「SUN AUDITION」で地域とともに  
アニメの聖地・池袋を盛り上げたい

### [ OVERTURE ]

毎年、たくさんの観光客が訪れるマンガ・アニメの聖地・池袋。そこで新たな声優ガールズユニットを発掘するべく「SUN AUDITION」を開催しているのが、81プロデュースです。取り組みの魅力や、豊島とアニメ文化の結びつきについて、運営担当の南沢江里子さんと所属俳優で「SUN AUDITION」のオフィシャルサポーターを務める本泉莉奈さんに伺いました。



Profile  
株式会社81プロデュース  
81produce Co.,Ltd.

「声・音声に関するトータルマネジメント」に取り組む会社。音響スタジオや俳優養成スクール、声優ミュージアム、ライブスペースといった多彩な事業・設備を有し、声優の育成やコンテンツの企画・制作など幅広い業務を展開している。

としまの街で、地元の人たちに愛される声優ガールズユニットをつくる――。

そんなワクワクする取り組みが始動しています。多くの人気声優を輩出している81プロデュースでは、豊島区の全面協力のもとメンバー発掘オーディション「SUN AUDITION」をスタート。合格メンバーは声優・音楽活動に取り組むほか、サンシャインシティでのメジャーデビューイベントをはじめ、さまざまな区のイベントにも出演予定です。

**南沢**「以前イベントで豊島区さんと一緒にした際、高野区長をはじめ、地域の皆さんがアニメ文化を受け入れ、応援して下さる姿勢に感動しました。また、ハロウィンコスプレフェスやトキワ荘ミュージアムなど、日常の中に文化を感じられることも豊島区の大きな魅力。若手の声優が育つ環境として素晴らしいです」

以前、池袋が登場するアニメ『体操ザムライ』に出演した本泉さんは、その言葉に大きくうなずきます。

**本泉**「高校卒業後初めて池袋を訪れたのですが、『乙女ロード』やコスプレ衣装の専門店を見て『こんなにワクワクする世界があるんだ!』と衝撃を受けました。アニメの一番の魅力は、可能性が無限大なところ。宇宙空間も、地下世界も表現できるし、声優は人種や性別を超えて役を演じられる。作品を観た方の人生を変えることもできる、大きな仕事です」



地域に密着しながら、「誰もが主役」の街づくりを進める豊島区全体の活動ともリンクした「SUN AUDITION」。多くの企業の応援も受け、地域の人たちを「愛し、愛されるユニット」の誕生に期待が高まります。

**南沢**「自分の夢を叶えるきっかけとしてこの機会を生かしてほしいですし、デビューしたあかつきには、文化が生活の一部となっている豊島区での活動を楽しんでほしいですね」

**本泉**「オーディションへの応募を迷っている人はぜひ勇気を出して行動し、新しい景色に出会ってほしいです!」

### [ NEWS ]

SUN AUDITIONの応募締切は、2022年1月26日(水)!

演技・歌・ダンスを兼ね備えた声優ガールズユニットのメンバー発掘オーディション。豊島区に本籍を置きながら幅広く活動予定です。興味がある方は、ぜひ最初の一步を踏み出してみてください!

―― 関連するSDGs ――



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

としま愛とみんなとの絆を力に、  
まちづくりへ挑戦【前篇】  
サステイナブルな



2022.01.24

#区長 #SDGs #国際アート・カルチャー都市

## [ OVERTURE ]

豊島区ならではの「文化」を軸としたまちづくりを進めてきた高野之夫区長。区が掲げる「国際アート・カルチャー都市」構想は、まちの姿を大きく変え、2020年には「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に東京都で初めて、ダブル選定されました。改革の陣頭指揮をとられた高野区長に、としまへの「愛」について伺いました。



### Profile

高野 之夫

Yukio TAKANO

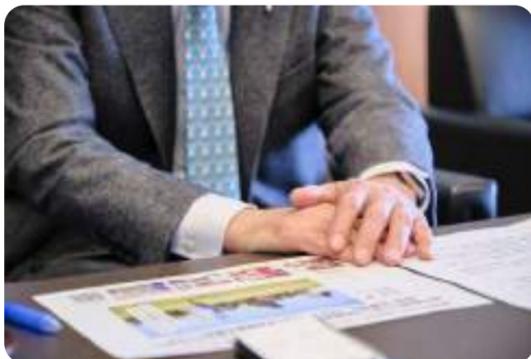
幼少期から豊島区で生まれ育つ。豊島区議会議員、東京都議会議員を経て、1999年に区長に就任。以降、行財政改革や文化を軸にしたまちづくりに取り組み、持続発展都市の実現に向けて貢献を果たしている。

## ピンチをチャンスに!——。

高野区長が取り組んできた改革を語るうえで、この言葉は欠かせません。数々の施策によって財政破綻の危機を乗り越えただけでなく、2014年に「消滅可能性都市」(\*)の指摘を受けてからは女性や子どもにやさしいまちづくりを進め、2020年には内閣府のSDGs未来都市に選定。見事「V字回復」を果たしました。

としまのために尽力してきた理由は、「としま愛」にほかならないと高野区長は語ります。

高野「終戦が決まった小学1年生の頃、豊島区は約7割が消失していた状況でした。校庭に出ると周りのほとんどが焼け野原になっていて、遠くまで見渡せたことを覚えています。しかし、みんなが絶望していたわけではありません。当時の池袋では闇市が開かれていましたが、そこには必死に生きようとする『人々のエネルギー』で溢れていました。その後、中学・高校・大学時代を過ごす中で、まちは着実に復興を遂げていったんです。地域の移り変わりとともに歩んできた経験が、『としま愛』につながっています」



高野区長は大学卒業後、家業を継いで古本屋を経営。「日本一の古本屋」を目指して奮闘を続けるなかで、次第に地域の仲間とまちについて話し合うことが多くなっていったそうです。

高野「生まれ育った豊島区を良いまちにしたいという思いは、当時から人一倍ありました。ところが世間では、『汚い・怖い・暗い』というマイナスなイメージが定着していて、良い面に気付いてもらえない。そこで、こうしたまちのイメージを払しょくし、豊島区を文化と品格のある文化都市にしたいという思いから、45歳で一念発起して政治の道に進んだんです」

それから区議会・都議会議員を経験し、1999年に区長に就任。困難に向き合いながらも『としま愛』を忘れず、改革に挑みつづけています。

高野「長年の目標を少しずつ叶え、みんなが期待を寄せて応援してくれる。今の環境は非常に幸せですし、面白い!と心を動かされることばかりです」

そう言って笑う高野区長の表情はとても穏やかで、「ピンチをチャンス」に変えてきた胆力がにじんでいました。

→ 後篇では、豊島区のまちづくりの根幹である文化や、今後の展望について伺います。

※民間有識者組織「日本創成会議」による発表。2010年から2040年にかけて20～39歳の女性人口が50%以上減少すると推計された自治体が指摘された。

## —— 関連するSDGs ——

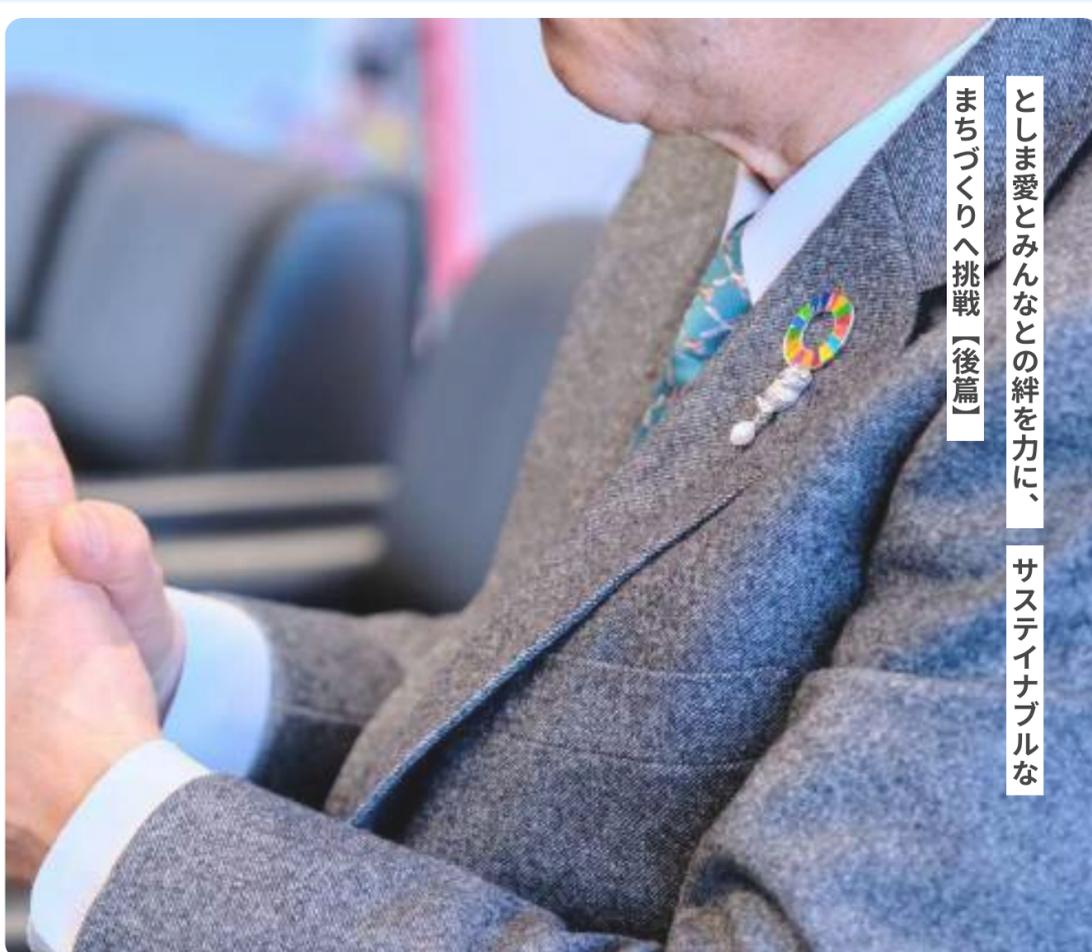


SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

としま愛とみんなとの絆を力に、  
まちづくりへ挑戦【後篇】  
サステイナブルな



2022.01.24

#区長 #SDGs #国際アート・カルチャー都市

## [ OVERTURE ]

豊島区ならではの「文化」を軸としたまちづくりを進めてきた高野区長。区が掲げる「国際アート・カルチャー都市」構想は、まちの姿を大きく変えただけでなく、自治体におけるSDGs推進の好例としても注目を集めています。後篇では、人々の心を支える文化の大切さや、今後の展望について伺います。



Profile  
高野 之夫  
Yukio TAKANO

幼少期から豊島区で生まれ育つ。豊島区議会議員、東京都議会議員を経て、1999年に区長に就任。以降、行財政改革や文化を軸にしたまちづくりに取り組み、持続発展都市の実現に向けて貢献を果たしている。

### 文化は世界共通であり、未来をつくるもの——。

取材中、高野区長は繰り返し文化について触れ、その意義を強調しました。

豊島区では2015年、文化を軸に持続発展する「国際アート・カルチャー都市構想」を発表。池袋駅周辺の4公園を核とするウォークアブルなまちづくりや、2019年の「東アジア文化都市2019豊島」をきっかけにした23の記念事業を完成させ、まちを大きく変えるなど、さまざまな取り組みを進めてきました。

高野区長は、国際目標であるSDGsについても、文化という観点が必要不可欠だと語ります。

**高野「17のゴール達成に向けて、心の豊かさをもたらす文化は重要です。身近な例でいえば、私の趣味である水彩画。描くことに没頭する時間は、心の支えになっています。近年は新型コロナ禍もあり閉塞した状況が続きますが、そんなときこそ文化という『灯火』の力が発揮されるはずです」**



もう1つ、豊島区のまちづくりを支えている大切な要素が、地域の人々との絆です。高野区長は、行政からの押しつけではなく、区民のみんなが自主的に参加したくなる仕組みづくりに力を注いでいます。

**高野「まちを愛し、人を愛し、区民の目線で考え、行動する。私の軸として、この思いがあります。豊島区では、世代を超えた交流の場として区民ひろばを設けていますが、この運営は区の職員だけではなく地域住民も担う。それぞれの視点を生かして活動してもらうことで、より快適な憩いの場となっています。ここまで区政と住民の距離が近い自治体は、豊島区をおいてほかにないのではないのでしょうか」**

幅広い職種や立場の人が集まる「オールとしま」の輪が、まちづくりに大きな貢献をしていることは間違いありません。

**高野「これからも『としま愛』を強く持ち、地域のみなさまと一緒に、挑戦を続けたいですね。まずは2022年の区制90周年、それから100周年に向けて、より大きな夢を描いていきます」**

高野区長が語る未来には、大きな「としま愛」と区民のみんなの「夢・期待」が詰まっているのです。

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

子ども大使が描く「としまの未来」。夢と希望があふれる、まちの姿とは。



2022.02.03

#子ども大使 #区長を訪ねる #SDGs未来都市を描く #元気いっぱい #としま未来文化財団

## [ OVERTURE ]

豊島区のまちを楽しみ、その魅力を広めるため2021年11月に創設された「子ども大使」。2022年1月には、子ども大使がとしまの未来を考えるスペシャルイベントを開催しました。区長との対話を通じて、子どもたちが思い描くまちの姿に迫ります。

### Profile

#### 子ども大使

Children's ambassador



まちづくりを牽引する「国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使」に子ども大使が創設された（その他、「個人」「学生」「団体」「企業」といった多様な主体が参画可能）。豊島区が好きという気持ちがあれば誰でも応募でき、中学生までの幅広い年代の子どもたちが参加している。まちの魅力を発見して伝えたり、イベントに参加したりと、活動内容は多種多様。

## 区長さん、おはようございます！——。

元気いっぱいな挨拶の声が区長室に響きます。部屋に集まったのは、豊島区の「子ども大使」をつとめる、幼稚園から小学生、中学生の子どもたち。この日、『SDGs未来都市！子ども大使スペシャルイベント』が開催され、23名の子どもたちが「としま区のみらい、こんなまちにしたい!」というテーマで発表を行いました。

子どもならではの自由な発想で描かれる未来は、高野区長の意表をつくものばかりです。

子ども大使「みんなが住みやすいまちにするために、街中にスプリンクラーを作りたいです！冬はスキー場みたいに温水を使って雪を溶かせるし、夏は冷水で道路の熱を冷ませます。道端脇の花壇に木を植えれば、流れた水を吸い上げて、緑も増えるはず。こういう取り組みをすれば、地球温暖化対策にもなるんじゃないでしょうか」

子ども大使「僕は、歴史や文化をたくさんの人に知ってもらえるまちにしたいです。鬼子母神堂や巣鴨地藏通りなど、豊島区にはすてきな場所がいっぱいあります。その魅力を知ってもらうために、『SDGsで人をつなぐ』スタンプラリーを提案します。豊島区のSDGsを見つけながら各地を巡っていけば、みんな地域の魅力に気づくと思います」



ほかにも、「パラスポーツができる施設を作りたい」「まちから電線をなくしたい」「無料で誰もが使える遊園地がほしい」など、発表される意見はさまざま。高野区長は1つ1つのアイデアに目を輝かせ、どうしたら実現できるかを子どもたちと一緒に真剣に考えていました。

高野区長「豊島区をよくしたいというみなさんの思いが表れていて、とても感動しました。今すぐ実現するのは難しいものもあるかもしれないけれど、今日聞いたお話は整理して、区役所の中で話し合っていきます。豊島区は今年で90周年、その次は100周年を迎えます。その未来を目指し持続的に取り組んで、素晴らしいまちにしていましょう」

### —— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

地域発のリサイクルで  
千早高校「IP+」が挑むまちづくり  
持続可能な社会を目指す。



2022.02.17

#IP+ #プラスチックごみ削減 #地域のあたたかさ #環境清掃部 #教育部

## [ OVERTURE ]

豊島区にある都立千早高校は、ビジネス教育に力を入れています。女子生徒6名で結成されたグループ「IP+」では、SDGsの達成や環境問題の解決に向けてさまざまな取り組みを展開。豊島区とも連携して活動を行っています。メンバーの皆さんに、豊島区との協働のきっかけや、活動を経て感じた想いについて伺いました。

### Profile

都立千早高等学校 IP+

Chihaya High School IP+



知的財産教育やSDGsに関連する環境問題の解決に向けた活動などを幅広く実施。プラスチックごみを再利用した靴下の開発・企画などを、外部企業などと連携し取り組んできた。この取り組みは、2021年3月に高校生の社会貢献活動を支援する「SAGE JAPAN」の日本大会で評価され優勝。世界大会でもSDGs賞を受賞した。

## 経済と環境が両立する社会——。

それが、都立千早高校の女子生徒6名によるグループ『IP+』の目標です。『IP+』のメンバーは、活動をより効果的に進めるために豊島区に協力を呼びかけ、地域と連携しながら推進してきました。

蘇「まずは活動内容を知っていただこうと、高野区長にプレゼンテーションを行いました。初めての経験で緊張しましたが、温かく迎え入れてくださったことが印象に残っています。プレゼンテーションの後、豊島区との連携が本格化し、地域のリサイクル活動や豊島区の魅力を発信する取り組みがスタートしました」

2021年11月には豊島区教育委員会「SDGsフェスティバル」で発表を行い、としまテレビにも出演。また、地域区民ひろばや文化施設にペットボトルごみの回収ボックスを設置する活動を通して、地域の人々の温かさにも触れられたといいます。

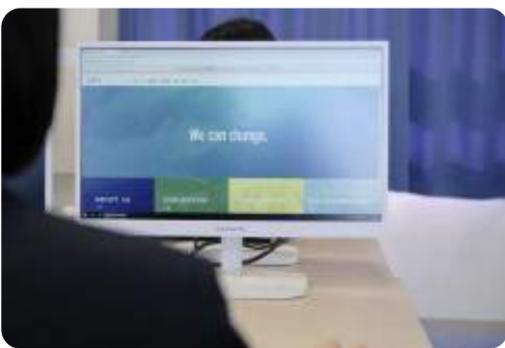
疋田「自宅からたくさんのプラスチックごみを持ってきてくださったたり、『応援してるよ』と声をかけてくださったり。みなさんの優しさやつながりの深さを感じて、とても感動しました」



右から蘇ハヨンさん、疋田琴美さん、橋爪光さん



右から吉川嘉納沙さん、福山乃愛さん、東屋咲良さん



現在の『IP+』のメンバーは間もなく卒業しますが、活動は次の世代に引き継がれます。

橋爪「チームの力があればできることが広がることを実感しています。後輩たちにも、ぜひ取り組みを続けてほしいですね」

福山「豊島区との協働を通じて、地域の魅力を学べたことも貴重な経験でした。社会貢献活動に取り組む人と区との連携がより深まれば、他の区が真似したくなる、素晴らしい地域になるのではないのでしょうか」

地域の未来を担う若者の言葉を取り入れ、誰もが主役になれるまちへ。  
千早高校の生徒たちと豊島区の挑戦は、これからも続いていきます。

## —— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

池袋駅のすぐ近くにある  
文化発信の「場」として  
重要文化財「自由学園明日館」。  
さらに深まる、その魅力に迫る

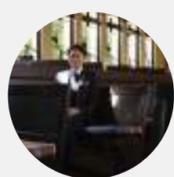


2022.02.24

#文化財 #自由学園明日館 #100周年 #文化商工部 #教育部

## [ OVERTURE ]

1921年、自由学園明日館は、学園の校舎として近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライト氏とその高弟・遠藤新氏により設計されました。1997年に国の重要文化財の指定を受けてからは、広く一般の方々にも公開されています。今回は副館長の福田竜さんに、さまざまな文化発信の「場」としての魅力についてお話を伺いました。



### Profile

福田竜

Ryu Fukuda

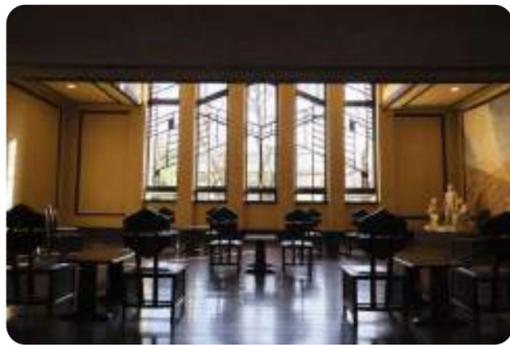
副館長を務めながら、会館営業セクションマネージャーも兼任。さまざまなイベント企画やコラボレーションに携わる。明日館を後世に残すために保存の取組みを推進する一方、結婚式場やイベント会場としても活用する道を模索している。

## 文化財のなかで、まちの文化財を学ぶ——。

そんなワクワクするような取り組みが存在するご存知ですか？

池袋駅からわずか10分の場所にある、国の重要文化財・自由学園明日館は、としまの街の文化財に関する展示のほかに、子ども向けのお天気学校や画家のアトリエ道具の展示など、さまざまなイベントを開催する「場」となっています。コロナ禍においては、ちょっとしたおでかけとして都内から訪れる方が増えたのだとか。

**福田「桜見学会や一晩だけのピアテラスなど、明日館で主催するイベントもあれば、持ち込み企画への貸し出しなど幅広く対応しています。この場所がさまざまな事柄に対して興味を持つきっかけになると嬉しいです」**



2021年は、明日館の創立100周年のアニバーサリーイヤー。これまで試行錯誤を繰り返しながら施設を保持してきましたが、現在の運営スタイルに落ち着くまでにはさまざまな苦労があったようです。

**福田「創立してから80年は、学園の内部施設だったのですが、文化財の指定を受けて2001年から一般にも公開するようになりました。文化財をさまざまなイベントの『場』として貸し出しする試みはあまり事例がなく、都度より良い方法を模索しながら対応していました」**

試みを続けるなかで徐々にノウハウが貯まり、「保存」と「活用」の良いバランスが見えてきたのだと語る福田さん。2021年12月には、豊島区と連携してSDGsの普及啓発イベントを開催しました。

重要文化財を起点とした、まち全体の活性化にも期待が高まります。

今後も街や社会の状況を考慮しながら、多くの人に楽しんでもらえる企画を検討しているそうです。

**福田「コロナ禍にあってこそ、意味のあることをやりたいと話をしています。こういった社会状況の中で、我慢を強いられている子どもたちに喜んでもらえるイベントも是非開催したいです」**

ウォークラブルなまちづくりを通し、より人が「動く」まちに変化しているとしま。これからもとしまの歴史と共に、自由学園明日館の歴史も着実に刻まれていくことでしょう。

## [ NEWS ]

施設利用のほか、各種イベント企画中！

自由学園明日館では、季節ごと、そしてテーマごとのさまざまなイベントを開催しています。ぜひ、としまのまちを歩いて訪れ、その文化の風を感じてください。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

ピザを通じて届ける「あたたかさ」。子どもたちや家族のくらしをサポートする「ピザーラ」の新たな試みとは



2022.03.02

#子ども食堂 #ピザーラ #子ども家庭部

## [ OVERTURE ]

豊島区内の「ほんちよこ食堂」は、子どもたちや家庭を対象に食事を提供する地域のコミュニティ・子ども食堂の一つ。豊島区が行う「子ども若者応援プロジェクト」の一環として、子ども食堂へのピザの無料提供を行う株式会社フォーシーズの福井友洋さんに取り組みについて伺いました。



### Profile

福井友洋

Tomohiro Fukui

宅配ピザ事業「ピザーラ」を経営する株式会社フォーシーズ・ピザーラ事業本部営業教育部室長。豊島区内に10年近く住んでいたこともある元豊島区民。現在「未来を創る 子ども・若者支援プロジェクト」の活動の一貫として子ども食堂への支援を推進している。

## 子ども食堂に香る、おいしそうなピザの香り——。

豊島区「池袋ほんちよの郷」で行われた「ほんちよこ食堂」。夕暮れ時からボランティアの方々が、親や子どもたちが訪れる前の準備を進めていました。間もなくしてピザーラのバイクが到着。たくさんのピザが運び込まれます。

**福井「ピザーラは35年前、1号店となる目白店からスタートしたので、実は豊島区は私たちにとってゆかりのある場所です。ある時、企業として食を通じて社会にもっと貢献ができないか、と思索していたことがこのような取り組みにつながりました」**

現在、子ども食堂への支援を6都府県で行っているそうで、豊島区もその1つ。区内にある複数の子ども食堂に、年4回程度無料でピザを提供しています。



**福井「僕自身、仕事を含めて豊島区には10年くらい住んでいました。この街で暮らし、また仕事を通じて知り合った人もたくさんいるので、思い入れは強いです。今回、この活動をはじめるとあって豊島区にご相談をした際も、すごく優しく迎え入れてもらいました。そういった『人』とのつながりの強さは、としまのまちの魅力ですね」**

ボランティアの方々と笑顔で話をする福井さん。ほんちよこ食堂には、親と一緒に訪れる子どもや、ベビーカーを押した外国人の方など、さまざまな人が訪れました。

**福井「現在フォーシーズでは、子ども食堂の支援のほかにもトマトの自社生産の取り組みを始めたり、子どもが職業体験できる『キッズニア』に出展したり、自分たちができる社会貢献活動を推進しています。そしてピザーラは今年で創業35周年。興味をもってくれる自治体さんとは今後もぜひ一緒に活動を進めていきたいですね」**

これからも支援の輪を広げるという夢を語る福井さん。その夢はこれからもきっと、たくさんの食卓を明るくすることでしょう。

## [ NEWS ]

### 「としま子ども若者応援プロジェクト」とは

としま子ども若者応援プロジェクトは、区民や企業の皆様など「オールとしま」によるSDGsの推進として、「支援をしたい人」と「支援が必要な人」を結び、地域全体で「支援の輪」を広げていくためのプロジェクトです。

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

「なんか面白いこと」を届ける。  
サンシャインシティの  
これまででこれから  
【前篇】  
まちづくりのハブとなる



2022.03.14

#サンシャインシティ #池袋 #まちづくり #サステナブル #文化商工部 #都市整備部 #環境清掃部

## [ OVERTURE ]

オフィスや水族館、展望台、ショッピングセンター、博物館、劇場など…さまざまな施設があり、区民や訪れた人たちの「憩いの場」として愛されているサンシャインシティ。設立当初からとしまの人や暮らしに寄り添い、サービスを提供し続けてきた背景には、どんな思いがあるのでしょうか。株式会社サンシャインシティのまちづくり推進部・倉林真弓さんに、会社が持ち続ける理念や、サステナブルな取り組みの数々について伺いました。



### Profile

サンシャインシティ  
Sunshine City

池袋にあるサンシャインシティは、1978年（昭和53年）の開業以来、オフィスや水族館、展望台、博物館、劇場、ホテルなど様々な施設を有し、地域とともに発展を続け、まちのランドマークとして多くの人に親しまれている。

## 家族連れや中高生、お年寄り、会社員まで——。

サンシャインシティには連日多くの人々が訪れ、としまの街全体に大きな活気をもたらしています。長らく地域に根を下ろし、幅広いサービスを提供してきた理由について、倉林さんはこう語ります。

倉林「1966年の当社創立当時、『子どもたちの未来に貢献する施設を含めた開発を行う』という政府の意向を受け、事業を進めてきました。

水族館や博物館、劇場など、多彩な施設を持つ複合施設となった今、子どもだけでなく多くの人にとっての『学びの場』という役割としても、受け継がれています」

サンシャインシティといえば、最近ではマンガ・アニメ作品を題材としたイベントや、地域と連携したプロジェクトなど、ユニークな企画を実施していることでも有名です。その企画を考える際にも、複合施設ならではの観点が大切だといいます。

倉林「サンシャインシティには、楽しむ、働く、住む、学ぶ…など様々なニーズを持つ人が訪れます。サンシャインシティのスローガン『なんか面白いこと、ある。』にあるように、“なんか面白いこと”をより多くの人に届けるためには、知的、エンタメ的、刺激的…など、あらゆる観点から好奇心をくすぐる“面白さ”を考えることが欠かせません」



株式会社サンシャインシティ まちづくり推進部 倉林



「なんか面白いこと」を生み出すサンシャインシティ



2006年～ サンゴを守る活動 サンシャイン水族館「サンゴプロジェクト」



エコアイデアコンテスト サンシャインシティ賞受賞アイデア

SDGsが提唱されるよりもっと前から、としまとともに成長を続けてきたサンシャインシティの姿勢・活動は、サステナブルそのもの。自社の取り組みを見つめなおしながら、近年は新たな取り組みにも力を注いでいます。

倉林「2021年9月に、当社のサステナブルな取り組みをまとめたWebサイト『サンシャインシティサステナビリティ』サイトを公開しました。15年以上取り組んでいる『サンゴプロジェクト』の他、最近は新たな取り組みも始まっており、そのひとつとして、『ECOアイデアコンテスト』と題して、全国の子どもたちからごみの分別に役立つアイデアを募集しました。豊島区さんにもご協力いただき、約500件以上の応募の中から入賞作品を決定し、2022年3月17日からは、そのアイデアを取り入れた資源回収ボックスを設置する予定です」

SDGsの認知拡大が、サステナブルの本質について再確認するきっかけになったという倉林さん。SDGsが掲げる2030年だけでなく、その先の未来に向けて、取り組みは続いていきます。

後篇では、豊島区との関わりや目指す未来の姿について、詳しく伺います。

## [ NEWS ]

### サンシャインシティ サステナビリティ (SDGs) サイト

サンシャインシティでは、「Happy! Fun! Sustainable!」を合言葉にサステナブルな世界の共創を目指しています。

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



「なんか面白いこと」を届ける。まちづくりのハブとなる  
サンシャインシティの  
これまでとこれから【後編】

2022.03.14

#サンシャインシティ #池袋 #まちづくり #サステナブル #文化商工部 #都市整備部 #環境清掃部

## [ OVERTURE ]

オフィスや水族館、展望台、ショッピングセンター、博物館、劇場などの複合施設で、区民や訪れた人たちの「憩いの場」として愛されているサンシャインシティ。地域との結びつきも深く、地域のさまざまな方と連携した活動を通じて、まちづくりの一翼を担っています。後編では、豊島区との関係やサンシャインシティが目指す未来の姿について伺います。



### Profile

倉林 真弓

Mayumi Kurabayashi

株式会社サンシャインシティで、2020年に新設された部署「まちづくり推進部」のミドルマネージャー。地域とともにまちづくりに取り組むほか、自社のサステナブルについて見つめなおすなど、地域と企業の持続可能性を考え、さまざまな取り組みを行っている。

株式会社サンシャインシティは、「サンシャインシティ」の運営だけでなく、地域と連携した取り組みにも力を注いでいます。

例えば、池袋駅東口のグリーン大通りで実施している、まちなかをリビングのように居心地よい空間にする取り組み「IKEBUKURO LIVING LOOP」の企画運営や、毎年夏に開催される「サンシャインシティ納涼盆踊り大会」への協力など、区民や池袋を訪れる人の交流の場づくりをしています。

**倉林「盆踊りの時期には、地域の方々やテナントで働く人たちが一緒にお祭りを楽しんでいます。とても素敵な光景で、毎年刺激をもらっていますよ」**



IKEBUKURO LIVING LOOP



サンシャインシティ納涼盆踊り大会



地域と連携して実施しているゴミ拾い活動



子どもの笑顔溢れるサンシャインシティ

倉林「豊島区のいいところは、区民の皆さんがいきいきと躍動しているところ。また、個人的には西武池袋線沿線の椎名町駅や東長崎駅の周辺に漂う、どこか安心するローカルな空気感が好きですね。どこかほっこりできる場所があるのも豊島区の魅力だと思います」

豊島区は現在、ウォークアブルなまちづくりや池袋駅の東西を結ぶ再開発構想を掲げ、取り組みを進めています。地域を担う企業の一つとして、こうした取り組みに積極的に参加していきたいと倉林さんは語ります。

倉林「豊島区をより活気のあるまちにするという試みは、当社だけではできません。これまで『点』として活動していた地域の人や企業、団体など皆さんと連携することで、『線』そして『面』として活動が広がり、より良いまちの実現へと向かっていくはずですよ」

ただの「建物」ではなく、訪れた方々の「思い出」を創出するサンシャインシティ。きたる2023年には、開業45周年を迎えます。

**倉林「サンシャインシティは、皆さんにとっての「連携のハブ」といった存在になりたいです。地域と企業が支え合い、お互いに発展を遂げていくという関係が理想ですね」**

長く地域と一緒に時を過ごしてきた企業が、としまとともに進めるまちづくり。そこには、多くの可能性が秘められているのです。

※訪れる人にとって、リビングのように居心地の良い空間を提供するべく始まった取り組み。毎年、グリーン大通りの歩道を活用して、産地直送の野菜や、コーヒー、クラフトビールなどの屋台やキッチンカーが連なるマルシェや、音楽の演奏、ストリートファニチャーの設置など、多種多様な試みが行われている。

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

第二のふるさと、としまへの想い。  
世界の共通言語「音楽」で  
人々の心を潤す



2022.03.22

#ふるさと #Voce #音楽 #としま区民センター

## [ OVERTURE ]

「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を将来像に、国際アート・カルチャー都市構想を進める豊島区。今回は、その活動に賛同する「豊島区国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使」であり、Voce音楽事務所の代表でもある廣瀬 史佳さんにお話しを伺いました。



### Profile

廣瀬 史佳

Fumika Hirose

佐賀県出身、現在は豊島区に在住。豊島区国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使。Voce音楽事務所代表。声楽家。昨年には自身の1stアルバム「ふるさと」を発売。Voce音楽事務所ではイベント企画や音楽教室運営も行っている。

## 第二のふるさと、としま——。

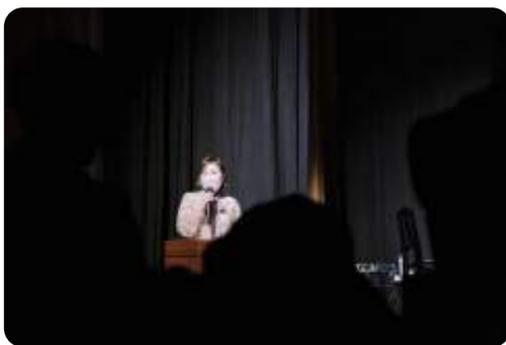
2022年2月10日、東池袋にあるとしま区民センターの多目的ホールにて。特命大使自主企画事業としてのイベント「音楽とお話」が、コロナ禍による延期を重ねながらも満を持して開催されました。

**廣瀬「音大進学をきっかけに上京。今ではとしまのまちに住んでいる期間のほうが、地元**  
**にいた日々よりも長くなりました。としまの人たちは、すごく文化を大切にしてくれます**  
**し、あたたかく迎えてくれる。その雰囲気がとても好きです」**

「音楽とお話」では、詩の朗読をはじめ、地域保健福祉を勉強する団体「あうるへるすの会」の活動内容報告、としまのまちを愛する方による演奏が行われました。第二部の演奏では、フラワーアーティストとのコラボレーションやVoce合唱部と演奏隊による『ふるさと豊島』歌唱など、素敵な音色がホールに響きました。

**廣瀬「新型コロナウイルス感染症の影響で、地元には帰れていなかったのですが、久しぶりに故郷の佐賀県唐津市にある延楽寺でのコンサート出演のため帰省しました。訪れてくれた方々とお話しする中で、『ふるさとを守る存在の大切さ』を強く感じたんです。豊島区も、わたしにとって思い入れある大切なふるさと。みんなの心の中にある『ふるさと』への想いが今回のイベントのテーマになりました」**

会場は心地よい音楽と、としまのまちにゆかりある人たちのあたたかい笑顔に包まれました。



第一部では、高野区長が応援に駆けつけました。



としま区民センター 多目的ホール

豊島区国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使でもある廣瀬さんは、ご自身の“としま愛”を源にして、個人・事務所の両面で豊島区の都市構想を応援しています。区制80周年記念イベントの1つでもある副都心線開通記念式典での歌唱をきっかけに、さまざまなイベントで音楽を奏でておられます。

**廣瀬「文化は、大切な心の栄養。としまのまちには、東にも西にも素敵なホールがあり、まさに『文化の風が薫るまち』ですね」**

プロ・アマチュア関係なく、音楽は多くの人の心をつなげる大切な文化。これからもとしまのまちには、素敵な音色が響き続けます。

## [ NEWS ]

### 豊島区国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使

豊島区国際アート・カルチャー特命大使は、国際アート・カルチャー都市としまの魅力等を区内外に発信する等、この都市構想に賛同する方々です。

### —— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



街中のごみを減らして 元気を届ける。  
としまシルバースターズが創る クリーンなとしま

2022.04.01

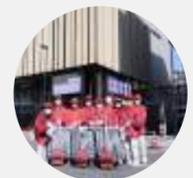
#ごみ拾い #赤いユニフォーム #豊島区シルバー人材センター #環境清掃部環境保全課

### [ OVERTURE ]

「豊島区をきれいにしたい」。その思いからスタートした「としまシルバースターズ」の活動。最初はワゴンいっぱいのごみが集まりましたが、次第にその量は減り、まちの景観も大きく変わったといいます。清掃美化活動に取り組むメンバーの皆さんに、仕事のやりがいや豊島区の魅力についてお話を伺いました。

#### Profile

#### としまシルバースターズ Toshima Silver Stars



池袋駅周辺の環境美化を目指して、豊島区シルバー人材センターに委託し社会貢献への意識が高い高齢者のメンバーで組織。清掃活動を行うとともに、ごみのポイ捨て禁止の呼びかけなども行う。制服はIKEBUSをデザインした水戸岡鋭治氏によるもの。一体感ある真っ赤なユニフォームがまちに彩りを与えている。

### 行き交う人が思わず振り返える、鮮やかな赤色のユニフォーム——。

カートを押しながら清掃美化活動に励んでいるのは、「としまシルバースターズ」の皆さんです。観光客の方々に声をかけられることも多く、手元にはIKEBUSの時刻表や豊島区×SDGsの資料を用意しているのだそう。IKEBUSの乗客に手を振るなど、地域の「つながり」の創出にも貢献しています。



約2年前の発足以来、メンバーは増え続け、現在は50人ほどが在籍。毎週火曜、木曜、土日祝日に、1班3人の6班体制で、池袋駅の東口・西口周辺で清掃美化活動に取り組んでいます。

**「まちをきれいにしたいという想いに加え、『健康のために歩く』ということも目的に参加しました。同世代のメンバーと会話できる楽しみもありますし、この仕事が大好きです」**

活動を始めた当初はワゴンがいっぱいになるほどのごみが集まりましたが、次第にその量は減少。現在は「宝探し」のような感覚で清掃美化活動をしていると語る表情に、笑顔があふれます。

**「清掃活動をしていると、まちの変化を実感します。喫煙者の数も減り、広い公園や花壇が増え、まち全体がきれいになりました。その一方で、変わらず人情味がある人たちが多いところも、としまの良いところですね」**

「としまシルバースターズ」の活動は、街中をきれいにするだけでなく、地域住民の美化意識の向上にもつながっています。

**「背筋を正して歩く、質問された際にちゃんと答えるなど……。身近なところから仕事の質を高めていきたいです」**

豊島区をより美しく、そして「活気」あるまちに変える、としまシルバースターズの活動。その活動の裏には、メンバーの皆さんのたゆまぬ努力がありました。

#### —— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



2022.04.05

#障害者福祉 #カフェふれあい #保健福祉部

「誰一人取り残さない」まちづくりを  
技術と想いがこもった商品を通して  
手しごとでつながる「はあと」。

## [ OVERTURE ]

豊島区役所4階にある手づくり商品の展示スペースと「カフェふれあい」。これらを運営しているのは区内の障害者福祉施設ネットワーク「はあとの木」のみなさんです。「はあとの木」運営委員会の二川康大さん、尾形菜月さん、齊藤健さんに、障害者福祉におけるこれまでの活動の経緯やこれからについてお話を聞きました。

### Profile

はあとの木

HAATO NO KI



豊島区内の障害者福祉施設のネットワークで、手づくりのパンや焼き菓子、雑貨などの販売を実施。販売を通じて人々の心と心をつなぐことを目指すとともに、障害のある方の収入源とすることを目的としている。区役所4階「カフェふれあい」前の商品棚の設置や、イケア・サンパークで開催されるファーマーズマーケットへの出店をはじめ区内各所で活動を行う。

かわいらしい焼き菓子やふくろうのかたちをしたパスケースやブローチ、鮮やかな模様が目を引くポーチまで——。

豊島区役所4階にある「カフェふれあい」前の棚には、個性豊かな商品が色鮮やかに並んでいます。

これらはすべて、豊島区内の障害者福祉施設に通う、障害のある方の手しごとで作られたもの。各施設をつなぐネットワーク「はあとの木」運営委員会の二川さんは、活動を始めたきっかけをこう話します。

二川「もともとは各施設ごとに商品の販売会をしていたのですが、ネットワークをつくることでより活性化するといったことがきっかけです。また連携の場が生まれることで、障害のある方への支援をさらに充実させられるのではないかと考えました」



「社会福祉法人 豊芯会」齊藤さん、「特定非営利活動法人 オーク」二川さん、「特定非営利活動法人 麦の家」尾形菜月さん



2019年に行われた販売会の様子



カフェふれあいではおいしいドリンクや軽食を提供しています

話し合いを重ね、16年前に「はあとの木」が誕生。現在はコロナ禍で出店の場が減っているものの、「はあとの木新聞」をはじめとする広報活動に力を注ぎながら、商品の制作・販売を続けています。

齊藤「お客様から言われるのが、『障害があってもなくても変わらない』ということ。実際、商品の質はとても高く、購入した方に満足してもらっていると感じます」

二川「『障害があるからできない』のではなく、1人の人間として無限の可能性を知ってほしいですね」

同じく運営委員会に所属する尾形さんも、その言葉にうなずきます。

尾形「誰しも『知らないところ』と感ずることはあると思います。だからこそ、はあとの木での活動を知ってもらって、障害に対する視点を変えるきっかけにしてほしいです」

齊藤「最近SDGsの広まりを受けて、豊島区内の企業からのお声かけも増えました。あたり前のようにみんながコラボレーションできる社会をつくっていきたいですね」

障害のある方が作る商品に触れ、存在を身近に感じてもらう。

その取り組みの先に見えてくるのは、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」社会そのもの。

誰もが助け合い、快適に過ごせるまちを築くために、「はあとの木」の活動は大きな役割を担っています。

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

まちのコミュニティを育むカフェ。  
東長崎のまちにある  
「MIA MIA」へようこそ



2022.04.18

#MIA MIA TOKYO #カフェ #東長崎 #コミュニティ

## [ OVERTURE ]

コーヒーが好きな若者から、店先を歩く近所のおじいさんまで。さまざまな人たちが笑顔で言葉を交わすカフェ「MIA MIA TOKYO」。「MIA MIA (マイアマイア)」とは、ワダウング語(※)で「家族や友人、通りがかった人などが集うシェルター」という意味。日本とオーストラリア、異なるバックグラウンドをもつご夫妻が営むカフェで、大切にされているコンセプトについて伺いました。

※オーストラリアの先住民の言葉のひとつ



### Profile

アリソン 理恵 / ヴォーン

Allison Rie / VAUGHAN

2020年4月、豊島区東長崎にコーヒーショップ「MIA MIA TOKYO」を夫婦2人で開業。コーヒーを楽しむだけでなく、まちのひとたちとの交流の場を提供するカフェとして多くのメディアに取り上げられている。ヴォーンさんはコーヒーを専門にブログの執筆活動を、アリソンさんは一級建築士として豊島区内でも活躍の場を広げている。

## おはよう。今日はどこに出かけるの？——。

池袋からほど2駅。下町情緒あふれる東長崎駅の駅前に、多様な人が集うカフェ「MIA MIA TOKYO」があります。訪れる方と店員がフランクに会話を交わすこのカフェのオーナーは、陽気なオーストラリア人の夫・ヴォーンさんと建築家の妻・アリソン理恵さんのお二人。

**ヴォーン「オーストラリア・メルボルンの人は、一日に3〜4杯くらいコーヒーを飲むんです。カフェでは多彩な会話が生まれて、バリスタは街のさまざまな情報を知っている。カフェは、人と人が繋がる場としての役割を持っているんです。そういったコミュニティをつくりたいと思っていました」**

もともとは豊島区との縁はなかった2人。ですが、カフェを立ち上げるために物件を探中で、偶然インターネットで現在の物件を見つけ、一目ぼれしたのだそう。

**アリソン「『このエリアのために何かしたい人に入居してほしい』という大家さんの想いも、惹かれたポイントの1つでした。一人になれるカフェはたくさんありますが、顔見知りを増やせるようなカフェはほとんどありません。だからこそ、世代を超えて『つながる場』にしたいという想いがありました」**

カフェの内装などの施工は地元の大工さんに依頼し、正に地元密着で理想のカフェを実現。あらゆる人を受け入れるカフェ・コミュニティが生まれたのです。



2人がまちのクリエイターの方々とシェアしているオフィス。本を貸し借りできるコミュニティポスト

まちに緑を増やすコミュニティ畑

としまのまちには幅広い世代の区民が住んでいるため、それぞれの嗜好に応えられるよう、浅煎りから深煎りまで用意するコーヒーの種類はさまざま。また、販売する雑貨も、「売れ残った時にも、逆に嬉しいと思えるものを置く」というこだわりもあります。

**ヴォーン「カフェに来て終わり、ではなくこのまちをもっと知ってもらうために、美味しいごはん屋などをまとめた『東長崎MAP』も、自主的に制作し配っています」**

コーヒーの良い香りが漂う空間で、人と人が出会い「つながり」が生まれるカフェ。これからも訪れた人たちとともに、ご縁を紡いでいくことでしょう。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

生涯スポーツ、サッカー。  
スポーツカルチャーで  
活気づくまちの姿



2022.04.18

#サッカー #スポーツ #健康 #からだづくり

## [ OVERTURE ]

豊島区の特徴といえば、「文化」を軸としたまちづくりですが、その中には「スポーツカルチャー」も含まれます。南長崎スポーツセンターのグラウンドには、サッカーに真剣に取り組む区民の姿がありました。老若男女問わず、幅広く活動を続ける豊島区サッカー協会の活動について、会長の吉波克昌さん・副理事長兼ジュニア委員会委員長の岩戸英さんにお話をお伺いしました。

### Profile



豊島区サッカー協会  
TOSHIMA FOOTBALL  
ASSOCIATION

1962(昭和37年)5月に創立。5つの委員会(ジュニア、Jrユース、社会人、シニア、レディース)で構成されている。会員数はトータル約1,200人、27チームに分かれて活動を行う。そのなかでもジュニアチームが最も多く、800人弱11クラブが所属している。

## 青空の下、サッカーボールを大きく蹴る子どもたち——。

3月某日、春空の下で今春で卒業する小学6年生を送り出す「卒業記念大会」が開催されました。早朝からスタートした第一試合は、両チーム一進一退。子どもたちが真剣な表情でグラウンドを駆け回ります。

吉波「受験などが理由で一度はサッカーから離れた子も、この大会ではみんなグラウンドに集まります」

岩戸「子どもたちに『プレーの機会』をプレゼントしたいという想いから活動を始めて、今年で24回目の開催となりました」

新型コロナウイルスの感染拡大が本格化した2020年の初期は、練習はすべて休止に。

子どもたちの体力の低下など心配の声もありましたが、ようやく以前の活動ペースに戻りつつあり、この日も子どもたちの元気な姿が見られました。

吉波「サッカーは健康に対するメリットがもちろんありますし、判断力やコミュニケーション能力、スポーツマンシップも身につくスポーツです。性別に関わらず、多様なプレーヤーが各チームで活躍していますよ」



豊島区サッカー協会の方針は、「まず優秀な指導者を育てる」こと。近年少しずつ成果が現れはじめ、ジュニアチームのコーチも含めて指導力のレベルが向上。さらに、子どもたちのプレーにも良い変化がみられるようになりました。

ソフト面の強化に加えて、ハード面をさらに充実させるため、豊島区では現在、旧十中学校跡地に国際基準のグラウンドを備えた野外スポーツ施設の建設を進めています。

吉波「サッカー協会の意見も組み入れて、検討を進めていただいています。豊島区内で初めての国際基準のグラウンドになるため、非常に楽しみです。生涯スポーツ・サッカーへの取り組みが加速すると思います」

岩戸「スポーツに携わる人間として、地域の方々が楽しく、元気に活動できるよう共に盛り上げていきたいです」

新しくできるグラウンドでも、スポーツに熱中する区民の元気な声が響き渡ることでしよう。

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区

子どもたちの夢が詰まった  
イベントをカタチに。  
トレンドを発信し続ける  
池袋パルコの想いに迫る



2022.04.22

#池袋パルコ #ジェンダーレス #エイジレス #リサイクル

## [ OVERTURE ]

最新のファッションやコスメ、雑貨、スイーツを揃え、トレンドの発信地として大切な役割を担う池袋パルコ。訪れる人々に充実した買い物体験を届けることはもちろん、近年は地域と連携したユニークなイベント企画にも力を注いでいます。株式会社パルコの坪井水季さん、株式会社パルコスペースシステムズの久世洋子さんに、パルコが届けるサービスの狙いや想い、持続可能な社会への貢献のカタチについて伺いました。

### Profile

坪井 水季 / 久世 洋子

Mizuki Tsuboi / Yoko Kuze

坪井 水季 / 株式会社パルコ池袋店で営業を担当。店舗のプロモーションや、近隣企業との連携による回遊イベントの企画・広報など、さまざまな活動を行っている。

久世 洋子 / 空間設計・デザインや、ディスプレイ演出などの総合空間事業を手掛ける株式会社パルコスペースシステムズに在籍。池袋パルコのショーウィンドウを使った展示にも取り組んでいる。

## 色とりどりの服や雑貨、繊細にデコレーションされたスイーツ——。

大勢の人が行き交う池袋パルコの中には、見るだけでワクワクするようなアイテムが並んでいます。コロナ禍により人の流れが少なくなった際、坪井さんによると「ピンチ」が新たな挑戦を生むきっかけにもなったそう。

坪井「2021年の冬には、サンシャインシティや各公園内のカフェと連携し、『IKEBUKURO LOVE WINTER』キャンペーンを実施。各スポットを巡るスタンプラリーやSNSを使った抽選イベントを通じて、まちの活性化にトライしました。5施設共同での回遊企画は初めての試みでしたが、結果として地域の結束が深まり、活動の幅も広がりました」

2021年度は、その他にもさまざまな企業・団体と連携したイベントを数多く開催。その1つが、新渡戸文化小学校とHISと協同行った特別授業「Have a nice trip! Hello new world!」です。

久世「外出が制限される中でも子どもたちに空想の旅を楽しんでもらおうと、授業の中で架空のキャラクターや地図、施設を創り出し、完成した作品を池袋パルコのショーウィンドウとHIS店内へ展示しました。自分が考えた作品がパルコに飾られると聞いたときの子どもたちの笑顔は、今でも心に残っています」

プロジェクトのコンセプトは「創ってつなぐ」。作品の素材には廃材が使用され、展示終了後は小学校に設置されるなど、サステナビリティに配慮している点もポイントです。



株式会社パルコ 坪井さん



株式会社パルコスペースシステムズ 久世さん



久世さん・坪井さんは今後の展望をこう語ります。

久世「子どもたちならではのユニークな視点やアイデアは、これからのまちづくりにも役立つはず。一方向ではなく、大人と子どもが相互に学び合う場を創っていきたいですね」

坪井「池袋パルコは、これからさらにジェンダーレス・エイジレスなサービス提供の場へと発展していきます。今回展示に協力してくれた子どもたちも、近い将来、お客様として来場されるはず。リニューアルしたパルコで、充実した時間を過ごしてほしいと思います」

※HISでの展示企画は終了しております

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

「当たり前」の暮らしを支えるごみ収集。  
きれいなまちを維持し、さらに明るいとしまのまちへ



2022.05.12

#清掃事務所 #ごみ収集 #コロナ対応 #災害支援

## [ OVERTURE ]

家庭で出たごみを、集積所に置いて回収してもらう。今や当たり前になっているごみ収集の仕組みですが、その裏には多くの職員の方の努力や工夫が隠れています。今回は、豊島清掃事務所主任を務める林真一さんに、日々の仕事内容やコロナ禍の影響、ライフラインとしてのごみ収集の仕事の大切さについて伺いました。

### Profile

豊島清掃事務所  
Toshima Waste Management  
Office



豊島区内のごみの収集運搬やごみの分別・排出指導等を行う。  
こうした日々の業務は、日曜日を除く毎日約90名程度の職員でシフト制で行っている。  
過去の大規模災害時には、被災地からの要請により廃棄物処理の支援を行った。

## としまのまちを巡る、白色と青色の大きな車体――。

まちの各所にあるごみ収集所。職員たちのテキパキとした作業によって、あっという間にゴミ袋は積み込まれ、きれいな道路が姿を現します。

豊島清掃事務所主任を務める林真一さんは、日々の仕事内容についてこう説明します。

林「ごみの収集は毎週月～土曜日（その他祝日も含む）まで、総勢90名程度の職員でシフトを組んで行います。

出庫する時間も7時半・8時など複数に分かれており、各チームでごみの収集・処分場への搬入を繰り返し、1日約6往復。2トンのプレス車で移動するので、狭い路地や通勤・通学ルートを通る際には細心の注意を払っています」

生活に不可欠な仕事でありながら、まちに溶け込んだごみ収集は正に「縁の下の力持ち」。  
昨今はコロナ禍で新しい生活様式への移行が進み、ごみの排出状況や人々の意識にも変化が起こったといいます。

林「1回目の緊急事態宣言発令後、休校や在宅勤務が始まったことで、家庭ごみが大幅に増加しました。いつもの年末年始のような大量のごみが出て、それを毎日回収するので、なかなか大変な時期でしたね。ですが、感染の恐れもあるごみを扱う私たちに向け、多くの方が感謝の言葉をかけてくれました。『見てくれている人がいる』という実感は、仕事に励むモチベーションになっています」



近年は多くの自治体で民間事業者への業務委託も進む一方で、区として清掃事業を持つことの重要性もあります。

林「阪神淡路大震災や新潟中越沖地震、東日本大震災が起きた際には、現地からの要請を受け被災地へ赴き、廃棄物の処理を行いました。日々の生活のみならず、いざというときにも対応できる体制を整えることが重要です」

こうした状況を受け、区では令和5年度から収集作業員を採用する予定。  
人々の安全で快適な暮らしを守るため、これからもサービスの発展は続いています。

### ―― 関連するSDGs ――



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

4年ぶり、念願の開催。  
まちが音楽と笑顔にあふれる風物詩  
「池袋ジャズフェスティバル2022」



2022.06.09

#音楽 #ジャズ #グローバルリング #池袋西口(公園)

## [ OVERTURE ]

毎年5月に行われていた「池袋ジャズフェスティバル」。新型コロナウイルスの感染状況が縮小傾向となった今年、待ちに待った音色とグルーブが、池袋のまち全体に響き渡りました。4年ぶりに開催となった今年、実行委員長を務めた山口泰弘さんに開催に込めた思いや今後の展望を伺いました。

### Profile

山口 泰弘

Yasuhiro Yamaguchi



2010年(第7回開催)より、池袋ジャズフェスティバル実行委員会実行委員長を務める。池袋ジャズフェスティバルは、2009年より、一般公募によってアマチュアバンドが演奏を行うストリート・フェスティバルとしてスタート。毎年5月の第3土曜日・日曜日に開催しており、2018年開催時(第15回)には約200バンド・2000名が参加した。2019年～2021年は開催を休止し、今回が4年ぶりの開催となった。

## 4年間、待ち焦がれたこの光景——。

5月21日(土)、22日(日)の2日間にわたり、「池袋ジャズフェスティバル2022」(通称「イケジャズ」)が開催されました。池袋駅付近を中心に6か所7会場で演奏が行われ、約150バンド 1000名以上が出演。池袋をジャズの音色で盛り上げました。

前回の開催は2018年。その後は、池袋西口公園の改修工事や新型コロナウイルスの流行により、休止が続きました。

山口「いろいろな方から開催を望む声をいただき、昨年も企画しましたが開催に至らず、とても悔しい思いをしました。4年ぶりに、これだけの出演者や観客の皆さんが集まってきて、笑顔で楽しんでいる姿をみられただけでうれしい。本当にがんばった甲斐がありました」



イケジャズの売りは、プロフェッショナルが支える音響の質の高さと、さらには、グローバルリングシアターというメイン会場。2019年の池袋西口公園リニューアルに伴い整備された、最先端の野外劇場です。

山口「あの大きい画面に映ったら、うれしいですね。迫力があります。とにかくみんなが笑顔で、楽しんでいるのが伝わってきました」

山口さんがイケジャズに込める思いと、豊島区の未来に込める願いはひとつ。プレイヤーも観客も「みんなが楽しいとしま」の実現です。

山口「豊島区制90周年事業がスタートする時期に、イケジャズを再開できたことがうれしいですね。終了時間を早めに設定しているのですが、その理由は帰りに池袋を回って、まちでもっと楽しんでほしいから。これからも豊島区とともにイケジャズを盛り上げて、すてきな歴史を創っていきたいです」

イケジャズは年に1回、2日間だけのイベントですが、それ以外でもとしまにフラッと訪れたときに「なんだかワクワクするまち」になってほしいと夢を語る山口さん。イケジャズはまさに、そんなまちの姿を体現したイベントとなりました。

5月の青空の下、音楽と笑顔にあふれた2日間。プレイヤーから観客へ、勇気と希望を届けた夢のような時間。新緑の季節、としまのまちに、やはりジャズの音色は欠かせません。

## —— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

切磋琢磨する創作活動の原点 「池袋モンパルナス」。  
九十周年を機に、過去と未来を見つめる 回遊美術館とは



2022.06.10

#池袋モンパルナス #回遊美術館 #アート

## [ OVERTURE ]

昭和初期から戦後の時代。池袋西口地域には多くの芸術家に移り住み、創作活動に励んでいました。第一次大戦後、芸術の中心地となったフランス・パリのモンパルナスになぞらえ、当時の気風は「池袋モンパルナス」と呼ばれています。その精神を現代に引き継ぐアートフェスティバル「池袋モンパルナス回遊美術館」。その魅力について当イベントの実行委員長である小林俊史さんにお話を伺いました。



### Profile

小林 俊史

Toshifumi Kobayashi

株式会社創発としまを平成23年に設立し、豊島区のまちづくりを考える月刊地域情報誌とついで『豊島の選択』の編集長であり、池袋モンパルナス回遊美術館の実行委員長を務める。そのほかにも豊島区観光協会常任理事など、幅広い観点からまちの未来を考える活動を行っている。

## 「古き、よき新しさを探そう」——。

このコンセプトのもと、3年ぶりに5月に開催した第17回目の「池袋モンパルナス回遊美術館」。

5月12日から25日にかけて行われた、このアートフェスティバルは、池袋の駅周辺を中心に街中の50か所以上の会場で一斉に企画を展開。昭和初期から戦後にかけ、芸術家たちが集い切磋琢磨した「池袋モンパルナス」の精神を現代に引き継ぎ、「街のどこもが美術館」をキーワードにさまざまなアート展示やワークショップなどを行っています。

新進気鋭の若手アーティストの作品展示をはじめ、アート×探索イベントなど体験型のイベントも含め大盛況となりました。

**小林「一番の見どころは新進気鋭のアーティストが集まる『池袋アートギャザリング公募展 (IAG)』。今年は豊島区制90周年を記念してIAG賞や区長賞に加えて、区民審査員による投票で賞を決定する区民賞を設けました」**



街中の「栗原画廊」をはじめ、各所でテーマにあわせた展示が行われた



豊島区出身で池袋モンパルナス生粋の洋画家「尾内健治作品展」を開催

また年々アート思考の意識も高まるなか、企業人向けのIAGアートガイドツアーを行うなど、新たな試みも進め、進化を続ける当イベント。スタートのきっかけは約20年前、池袋モンパルナスを見直そう、と区民や企業、劇場、大学、ギャラリーらが一緒に動き出したことでした。

小林さんもイベント立ち上げ初期から携わっていたメンバーの1人です。

**小林「池袋モンパルナスの良さは、『仲間と切磋琢磨して成長しよう』という気風にあります。ジャンルもスタイルも自由、メジャーやマイナーも関係ない。自分の理想を追いかけ、自分が良いと思うものを発信する、そんな刺激とまちに息づく文化の魂が、このまちにはあります」**

池袋は、自由な発想を肯定する、クリエイターの仲間たちが集うまち。としまでアートを発信することにも意義がある、と小林さんは語ります。今年は10月～11月ごろにも、回遊美術館の開催が予定されています。

文化の風薫るまち、豊島区。

今日もまた、池袋の土地から新たな芸術家が生まれていくことでしょう。

## —— 関連するSDGs ——



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

「モラルのない心を成敗ッ」。  
「ごみゼロをともに目指す」  
「ゴミ拾い侍」の活動とは  
侍姿でまちを巡り、



2022.06.14

#ゴミ拾い侍 #としま“まちキレイ”プロジェクト #日本文化 #リサイクル

## [ OVERTURE ]

地域住民や企業とともに、より気軽に楽しい環境美化活動を行おうと始まった「としま“まちキレイ”プロジェクト」。その一翼を担うのが、デニムの着物・刀に見立てた火ばさみを持ち、ごみ拾いパフォーマンスを行う集団「ゴミ拾い侍」です。この日活動に参加されたおふたりに、取り組みを始めた理由や伝えたい思い、豊島区での活動の展望などを伺いました。

### Profile

#### ゴミ拾い侍

#### Trash Picking Samurai

侍の格好で各地を訪れ、殺陣を取り入れたごみ拾いパフォーマンスを行う集団。洗練された演技は国内外で大きな反響を呼び、Tik Tokのフォロワーは60万人以上(※)。現在は週2回、池袋を中心に活動し、その様子をSNSで配信している。2022年度「としま“まちキレイ”推進大使」のほか、3Rを推進する環境省Re-styleサポーターを務める。

※2022年6月現在。



刀のように火ばさみを構え、青いデニムの着物姿で、颯爽とごみを回収していく――。

毎年5月30日前後に実施される豊島区の清掃イベント、『ごみゼロデー』。今年は、90周年事業の部会でもある「としま“まちキレイ”プロジェクト」の取り組みとして、推進されています。

5月30日に池袋西口公園で行われたセレモニー後のごみ拾い活動では、区役所職員をはじめ、区内の町会・商店会・学校・企業関係者など、250人近くがごみ袋を片手に街を巡りました。中でも目を引いたのは、ごみ拾いパフォーマンス集団「ゴミ拾い侍」です。



「取り組みを始めたのは10年前。7～8年前に東京に進出し、今は豊島区をはじめ東京都内を中心にパフォーマンスを続けています。今後さらに各地に『ごみ拾いサークル』を作って、日本全国、そして世界へと、活動の輪を広げていくことが目標です」

現在、国内に2人、ロサンゼルスに2人、女性チームのごみ拾い乙女も含めて、計5名で活動を行っている「ゴミ拾い侍」。「モラルのない心を成敗」という合言葉には、活動で得た気付きが込められているといいます。

「最初は『ごみを成敗』と呼び掛けていたんですが、もともとは望んで購入されたものの一部のはず。悪いのはごみ自体でなく、処理を人任せにしてしまう人の心だと感じたんです。モノを『置いている』、という感覚なのかもしれませんが、その先をきちんと考える意識の変化が必要だと思います」

この日のごみ拾い活動では、空き缶やたばこの吸い殻、傘などが多く目立ちました。それでも、他の区での活動と比較して、としまのまちはとてもきれいだと言えそうです。

2022年3月からは、「としま“まちキレイ”推進大使」も務める彼らに、地域を担う役割への意気込みを聞きました。

「としまのまちをすべて巡り、キレイにしていくのはもちろん、SNSなどを使って地域の魅力も伝えていくつもりです。私たちの個性を生かして、『大使』の務めをしっかりと果たしたいと思います」

エンタメと美化活動。2つを掛け合わせながら、現代ならではのツールを駆使して環境美化に貢献するメンバーたち。そこには、まちの「きれい」を大切に「侍」の姿がありました。

## [ NEWS ]

### ごみ拾い侍

渋谷や池袋が拠点のごみ拾いパフォーマンス集団。環境省Re-styleサポーターにも就任。TikTokやYouTubeにて海外からも「カッコイイ」と反響を呼んでいます。

### — 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています